

3 医療・福祉の充実

(医療・福祉の充実－1)

神戸市第二次救急病院協議会救急医療情報システム
(神戸市第二次救急病院協議会)
<http://www.kobenijikyuu.info/>

〔概要〕

神戸市内の民間病院を中心とする53病院が作った救急医療向け情報システム。病院側の救急医療情報をインターネットで、パソコンや携帯電話に公開しているため、53病院のリアルタイムな情報は、消防署や救急車内での対応や市民の急病対応として活用されている。

【日経地域情報化大賞 2008 日本経済新聞賞受賞】

〔コラム〕

神戸市消防白書によると、平成18年度に救急車で収容された神戸市民は57,208名あり、そのうち39,199名、総数の68.5%を当協議会に所属する病院群が入院治療をおこなっています。ちなみに、中央市民病院・西市民病院・西神医療センター3病院の救急車搬送患者数は11,440名、全体の20.0%でした。この様に、数の上では2次救急病院群は市民病院群の3倍を超える件数を引き受け治療しているといえます。では、質はどうかと云うと、2次救急病院群の中で、夜間休日何時でも狭心症や心筋梗塞に対して血管内治療ができる病院が3病院、破裂脳動脈瘤の手術ができる病院が3病院、そして、消化器外科手術のできる病院が常に4~7病院です。したがって質の上から云っても市民病院群に比べて何ら遜色はありません。私ども2次救急病院群は、神戸市の隅々まであまねく分布しているので、神戸市民が何時でも何処でもアプローチしやすく、また、あらゆる専門科目を備えていることから、いわば「第2の救急救命センター」の様な働きをしています。

しかし、協議会に参加する53病院がバラバラに動いていたのでは、真の「第2の救急救命センター」としての役割をはたすことはできません。そこで、これら病院群の間を取り結ぶためには、「病院間で情報を共有する救急医療情報システムが必要であり、かつ、救急隊員との密接な連携が必要である」との結論に至りました。

神戸市第2次救急病院協議会救急医療情報システムは平成12年秋から協議会に参加する病院の間で、それぞれの病院がもつリアルタイムの情報を共有化するため、VPNを活用した地域イントラネット網を用いて構築を始めました。そして、平成14年末には2次救急病院群に参加する総ての病院がネットワークに参加し、リアルタイムの情報を正確に入力するようになりました。さらには、兵庫県広域災害医療情報システムにも情報を提供し、災害医療にも大いに貢献しています。

さて、現行のイントラネットのままでは病院間の連絡はできても、肝心の

救急隊員への情報提供がもう 1 つスムーズにいきませんでした。また、情報の一部を「急病情報」として市民にも公開する必要がでてきました。そこで、平成 17 年末より情報提供部分のみインターネット対応に改編し、その 1 部を「救急車対応情報」として、各消防署にはパソコンを通じ、救急車には携帯電話を通じてリアルタイムに提供でき、かつ、1 部を「急病対応情報」として一般市民にパソコンや携帯電話を通じて公開すべくシステムの再構築を始めました。その結果、平成 19 年初めには 53 病院のリアルタイムの救急医療情報を救急隊へ「救急車対応情報」として、一般市民へは「急病対応情報」として提供できる体制が整い今に至っています。

今後、救急車と直通する情報システムを通じて、救急を要する神戸市民を迅速且つ正確に専門病院に搬入治療するべく努力を重ねるつもりです。また、急病の市民の皆様にはインターネットを通じて、急病診療情報を流しますので、ご利用いただければと考えています。

〔制作費（うち公的な補助額）〕

17 百万円（7,000 千円：神戸市）

（神戸市第二次救急病院協議会のホームページより）



（問い合わせ先）

神戸市第二次救急病院協議会 事務局長 志藤 義明

TEL : 078-351-0657 e-mail : 2jijq-kobe@msc.biglobe.ne.jp

(医療・福祉の充実－２)

テレビ電話による高齢者等の生活サポート (島根県 奥出雲町)

<http://www.town.okuizumo.shimane.jp/admin/admin/admin040/040/ict.html>

[概要]

平成19年12月に町内全戸に敷設された光ファイバ網を活用し、操作が簡単で高画質・大画面の多機能テレビ電話を高齢者宅や民生委員宅、福祉・医療施設、公共施設等に設置するとともに、役場内にコールセンターを整備する。このテレビ電話システムが既存の地域助け合い機能の補完的役割を果たすことにより、日常的な高齢者見守り・ヘルスケア・買物支援、在宅医療等の充実を図る。

テレビ電話では映像のやり取りができるため、音声のみよりも詳細な状況把握等が可能である。また、コールセンターの電話取次ぎ機能等と組み合わせることで、従来からの高齢者支援体制と連携しながら、高齢者等が安全で安心な生活ができる環境整備を目指す。

[コラム]

過疎化・少子高齢化に伴い、医療費の増加や高齢者の安否確認等が行政の大きな課題となっていますが、これらの諸課題に対して、テレビ電話システムを有効活用して対応していこうという取り組みです。

テレビ電話の利用者が主に高齢者ということで、このシステムを導入するにあたり、協議会を立ち上げて「高齢者が利用しやすいシステム」について関係者と何度も議論を重ねました。色々なご意見をいただき、すべての要望を満たすことはなかなか難しいものがありましたが、検討の結果、高齢者の利便性に考慮し、テレビ電話は大画面・高画質・タッチパネルのものを採用しました。画面構成についてもできるだけ高齢者でも見やすい画面を心がけました。また、民生委員や商工会等にもご協力いただきながら、運用体制等の検討を行いました。

平成21年1月からシステム運用を開始しておりますが、利用者の皆様からいろいろなご意見をいただいております。高齢者等の生活の一部としてこのシステムを活用していただくために、説明会や個別の利用サポートをはじめ、積極的に利用者からご意見を伺いながら、このシステムをさらに使いやすいものにしていくために改善を重ねたいと思います。

将来的には、このシステムが高齢者だけでなく住民の皆様にも広く使っていただけるように、皆様から活用方法等をご提案いただきながら、幅広い利用シーンに対応できるようなシステムにしていきたいと考えています。

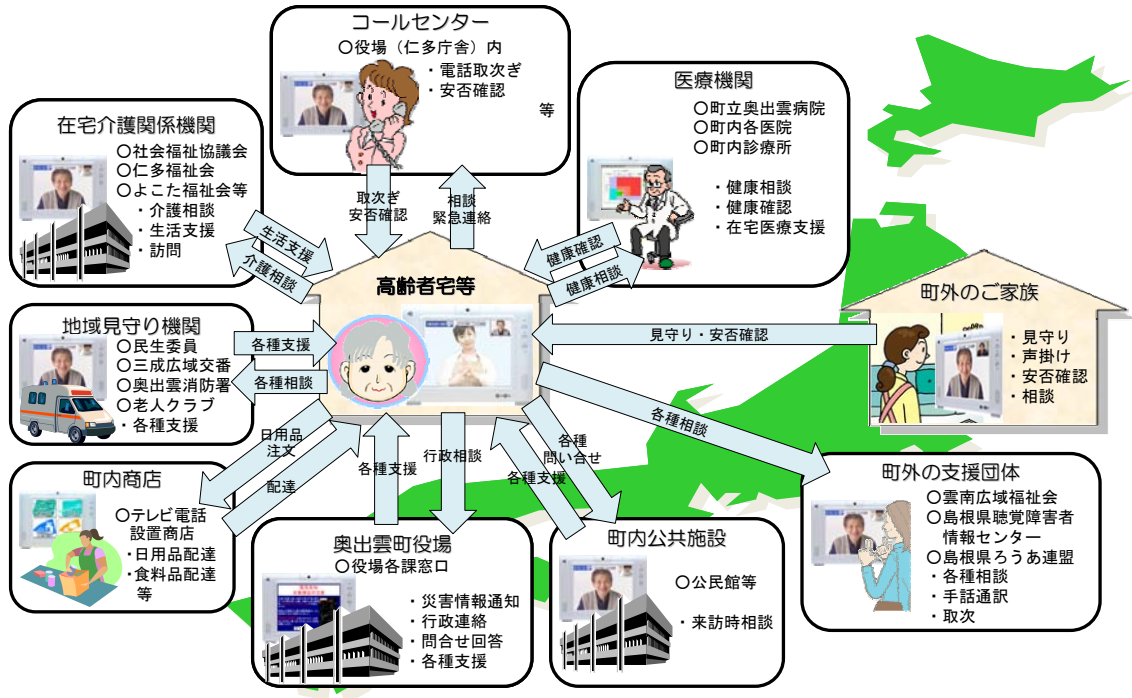
〔事業費（うち公的な補助額）〕

平成20年度 約40百万円（総務省からの委託事業）

【イメージ図】

島根県奥出雲町ICT利活用モデル事業 事業イメージ図

平成19年12月に町内全戸に敷設された光ファイバ網を活用し、操作が簡単で高画質・大画面の多機能テレビ電話を高齢者宅や民生委員宅、福祉・医療施設、公共施設等に設置するとともに、役場内にコールセンターを整備する。このテレビ電話ネットワークが既存の地域助け合い機能の補完的役割を果たすことにより、日常的な高齢者見守り・ヘルスケア・買物支援、在宅医療等の充実を図る。



（問い合わせ先）

奥出雲町役場 情報政策課（窓口）、健康福祉課

TEL：0854-54-2530（情報政策課）

(医療・福祉の充実－3)

光ファイバ網を活用した「白浜医療情報ネットワーク！」 (和歌山県白浜町、白浜はまゆう病院)

〔概要〕

白浜はまゆう病院((財)白浜医療福祉財団が運営)の医療情報システムの機能を、白浜町内に敷設される光ファイバ網の専用回線を利用して、財団が運営する5ヵ所の診療所(内白浜町立 3)において活用することにより、患者の医療情報を一元的に管理し、住民が安心して暮らせる医療環境を整備する。

〔コラム〕

今年度、「地域イントラネット基盤施設整備事業」により整備された光ファイバ網を利用し、白浜はまゆう病院と財団が運営する各診療所とのネットワークの構築が完了しました。

情報を処理するサーバ装置や保存するディスク装置を全て白浜はまゆう病院に設置し、遠隔画像診断、電子カルテ、医事会計・オーダーリング等のシステムを各診療所と共同使用を行います。

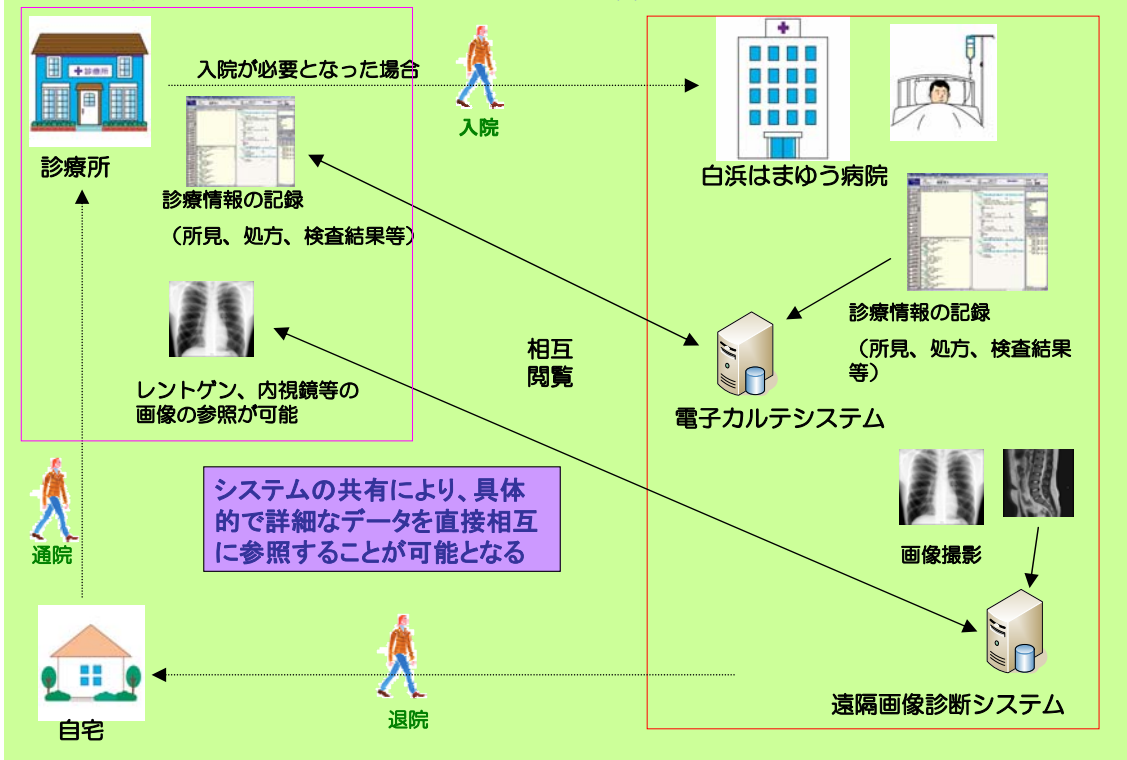
これにより、全てを一つの医療機関のように患者情報を共有し、一貫した医療を行うことができ、時間外診療であっても白浜はまゆう病院に行けば継続した診察を行なうことができるなど、より良い医療サービスの提供が可能となりました。

また、ネットワークの導入によって、システムの操作方法が白浜はまゆう病院と各診療所で統一されるため、急病等によるスタッフの補充を容易に他施設から派遣することができ、過疎地に所在する複数のへきち診療所の医師をはじめスタッフの確保等、診療所を運営維持していく上でも重要な意味を持ちます。

このネットワークは、現状では財団が運営する医療機関に限られていますが、将来的には近隣の中核病院と連携し、他の機関がWebで参照できるシステムへと発展させ、最終的には、地域共通のデータベースによる一患者一カルテの構築を目指しています。

費用の内訳：国庫補助額 (13,963,000 円)
市町村負担 (24,280,500 円)
財団負担 (38,766,500 円)

白浜医療情報ネットワーク全体構成図



(問い合わせ先) 白浜町企画財政課 TEL : 0739-43-5555

e-mail : kikaku@town.shirahama.wakayama.jp

白浜はまゆう病院 TEL : 0739-43-6200 e-mail : s_ozaki@hamayu-hp.or.jp

(医療・福祉の充実－4)

ユビキタス双六遍路 (徳島大学地域創生センター、徳島県徳島市)

[概要]

「ユビキタス双六遍路」は、徳島大学・吉田敦也教授（徳島大学地域創生センター長・総務省地域情報化アドバイザー）開発による「バーチャルお遍路」システム。

[コラム]

本コンテンツは、健康増進行動をICT活用で記録することが、健康行動の持続に効果的であることを狙って開発しました。特に、持続促進の要因としての「仲間づくり」のきっかけとなったり、Webを使うことによって、家族や友人の参加・見守りを可能とし、それが、新しいコミュニティの形成や活性化、まちづくりにつながっていくことを体験・実感してもらうことを目的にしています。このシステムを使うと、ウォーキングした歩数をパソコンや携帯電話からブログに記録することで、どれだけ歩いたかが四国八十八カ所のお遍路地図に表示され、仲間同士で情報交換しながらウォーキングすることができます。このことにより、マンネリ化しやすい日頃のウォーキングも、四国八十八カ所に思いを寄せながら、楽しく進めることができます。歩数をブログを使って入力する方法としたことにより、平均年齢65歳の利用者がブログ利用を日常化しこれまでに経験したことのないICTライフを楽しみ、健康づくりや家族との交流を飛躍的に増大させました。

一方で、パソコンやインターネット利用が不慣れな方が主な利用者であるため、利用開始のための準備に電話サポートなりが必要なことが多く、そのことをマニュアルや技術的に解消する方策を考案するのはかなり難しく、また、コンピュータシステムやネットワークシステムは管理が必要であり、その手間を誰が負担するかはさらに難題となりました。現状では、品質を保ったサービスを維持するため、積極的な広報をあえてせず、利用人数を制限している状況です。

本システムの効果で特筆すべきは、このシステムを2005年以来利用継続している人がいることです。双六遍路をすでに10周（1周1117キロ）した人もいて、全体的な利用人数は少ないが、健康増進行動の持続に大きな効果があることがわかります。

また、本システムではモブログ（携帯電話からウォーキング中に更新する）手法を導入することにより、実際の歩き遍路中にも活用できるシステムを実現しています。

本システムで、これまでにない歩き遍路の楽しみ・味わい、チャレンジの

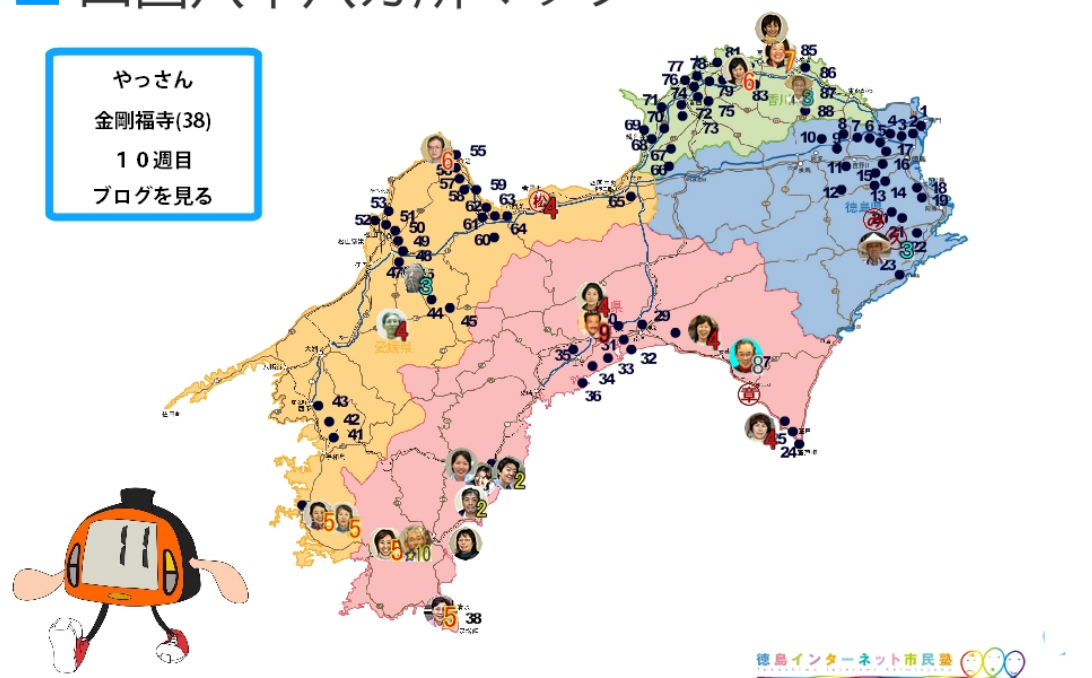
気持ちが高まり、糖尿病改善等の運動療法として、地域ぐるみの健康ウォーキングの実践などに活用されています。

※当システムはインターネット活用教育実践コンクール第7回で 文部科学大臣賞 を受賞、第9回で 特賞 「多摩川源流探し-歩数計着用と ICTシステムの活用で生活リズムを整え、学力も向上させよう-」でも活用されました。(<http://www.netcon.gr.jp/>)

ユビキタス双六遍路は本年2月にシステムリニューアルしました。このことによって、個々人の毎日の記録を統計処理等することが容易になり、成果やトレンドを健康管理などにより活用しやすく、利用者増にも対応しやすくなりました。また新バージョンでは、地図を好きなものに変更が可能となり、四国遍路に限らず、世界各地をコース対象に設定することができるようになりました。

現在、NPO 法人徳島インターネット市民塾にてサービスされており全国どこからでも利用できます (<http://tokushima.shiminjuku.com/>)。

■ 四国八十八カ所マップ



(問い合わせ先) 徳島大学地域創生センター TEL : 088-656-7651

(医療・福祉の充実－5)

加古川地域保健医療情報システム
(加古川地域保健医療情報センター)
<http://www.kakogawa.or.jp/index.html>

〔概要〕

このシステムは、コンピュータやICカード(カインドカード)を使って、地域住民の健康作りを支援する。兵庫県加古川市、稲美町、播磨町では、加古川市・加古郡医師会などの関係機関と協力して、このシステムに同意し、申込まれると、健診や検査の結果、病名や処方された薬などの診療に必要な情報を蓄え、病院や診療所にかかったときに「いつでも、どこでも、だれでも」が安心して適切な医療サービスを受けられるようになる。

〔コラム〕

加古川地域では、地域住民の健康を守り、より質の高い保健医療サービスの提供を目指し、地域住民のPHD(パーソナル・ヘルス・データ)を一元化し、いつでも、どこでも、誰でもが、良質な保健医療福祉サービスを受けられるように全国に先駆けて、昭和63年から「地域保健医療情報システム」を構築し、順調に稼動しております。

現在では、119医療機関でシステムが運用され、17万人を超える地域住民のPHDがホストコンピュータに蓄積されております。これは「地域住民の健康を守り、支援していく」というひとつの目標に向かって、関係各機関が協調し、前向きに取り組んできた成果であると言えます。

安心して暮らせる、快適で住みよいまちづくり
加古川地域保健医療情報システム 加古川地域ニューメディア・コミュニティ構想

トップページ システム詳細 事業概要 視察 リンク

みなさんの健康を願うシステムです

感染症情報
kansensho information

今日の感染症
2009.01.20発表

加古川地域にある37カ所の定点観測機関から入力された感染症発生状況をご覧ください。

ごあいさつ

加古川地域(兵庫県加古川市・播磨町・稲美町)では、地域住民の健康を守り、より質の高い保健医療サービスの提供を目指し、地域住民のPHD(パーソナル・ヘルス・データ)を一元化し、いつでも、どこでも、誰でもが、良質な保健医療福祉サービスを受けられるように全国に先駆けて、昭和63年から「地域保健医療情報システム」を構築し、順調に稼動しております。

現在では、119医療機関でシステムが運用され、17万人を超える地域住民のPHDがホストコンピュータに蓄積されております。これは「地域住民の健康を守り、支援していく」というひとつの目標に向かって、関係各機関が協調し、前向きに取り組んできた成果で

地域住民のみさんへ

(問い合わせ先) 加古川地域保健医療情報センター TEL : 079-429-2100

(医療・福祉の充実－6)

テレビ電話で医療相談「遠隔健康相談システム」
(福島県磐梯町)

〔概要〕

磐梯町医療センターで実施している、ブロードバンド（NTT 東日本 B フレッツ）を活用したテレビ電話による医療相談サービス。

〔コラム〕

本事業は磐梯町が整備した光ファイバ網を NTT 東日本に IRU 契約で貸し出し、町内全域に「B フレッツ」サービスが提供されたことにより実現した事業です。

テレビ電話を通じて瑠璃の里「医療センター」と各家庭を結び、医療センターの医師と住民が画面を通して医療相談を受けることができます。これは「磐梯町地域情報化基本計画」のアンケートから、住民が医療、健康、保健、福祉に高い関心を持っていることが示されたことから実施に至りました。

(磐梯町ホームページより)

http://www1.town.bandai.fukushima.jp/t_life/ruri_no_sato_tv_phone.htm

磐梯町医療センター



自宅



テレビ電話で相談



テレビ電話専用ナンバーを利用
(フレッツドットネットナンバー)
6桁の番号

テレビ電話同士で専用番号(ドット
ネットナンバー)での通話は無料



(問い合わせ先)

東日本電信電話株式会社 ビジネスユーザ事業推進本部 TEL : 03-3830-9121

(医療・福祉の充実－7)

遠隔医療支援システム
(福島県只見町)

〔概要〕

只見町唯一の医療機関、国保朝日診療所と福島県立会津総合病院を専用線で結び、映像による遠隔医療支援を実施。

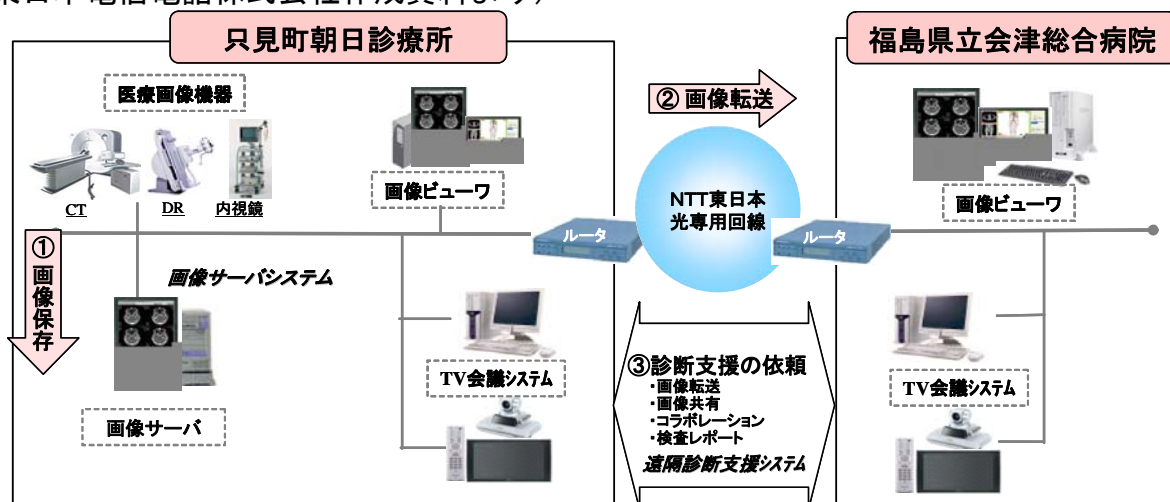
〔コラム〕

本システムは只見町唯一の医療機関である国保朝日診療所の新築に伴い整備しました。診療所の新築は老朽化が著しい施設の一新と、潜在的な医師不足を補うために実施しました。福島県立会津総合病院と専用線で結ばれたことで、映像を通じた遠隔での医療支援を受けられるようになり、平成17年7月29日に利用開始しました。

<遠隔医療支援システムの概要>

- ・ 各種医療機器からの画像を画像サーバに取り込み、保存し、画像ビューワで参照しながら診断を行う。
- ・ 画像を福島県立会津総合病院と共有し、テレビ会議等の遠隔コラボレーションシステムと連動させて、リアルタイムで効率的な遠隔画像診断支援を可能とする。

(東日本電信電話株式会社作成資料より)



(問い合わせ先)

東日本電信電話株式会社 ビジネスユーザ事業推進本部 TEL : 03-3830-9121

(医療・福祉の充実－8)

テレビ会議システムによる医療カンファレンス
(福島県立医科大学)

[概要]

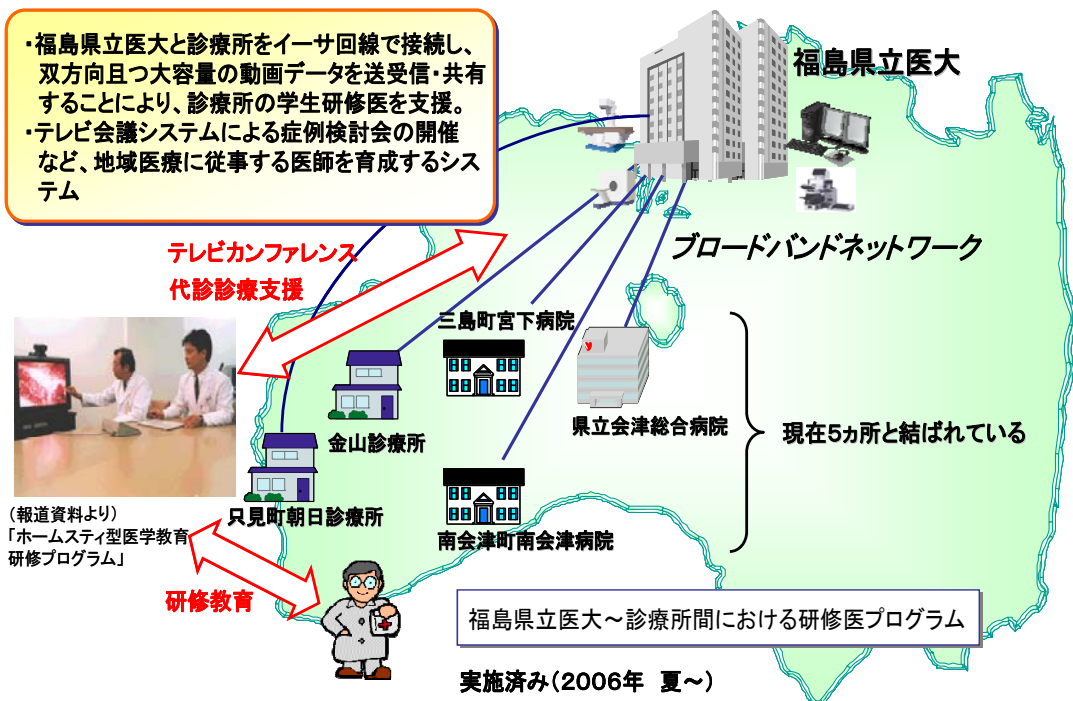
福島県立医科大学と南会津、奥会津地域の5つの医療機関をネットワーク化し、大学教員が遠隔地の医師や研修医に治療法などの指導や医療機関同士の連携強化に活用。

[コラム]

本システムは、過疎地の医療充実に向けて福島県立医科大学と南会津町、奥会津地域5つの医療機関に整備したテレビ会議を中心としたシステムです。現地の医師や研修医が患者の症状に合わせて、より高度な医学知識や治療法について大学教員からアドバイスを受けることができます。大学に映像と音声を同時に送信することで、治療の迅速化や病気の早期発見にもつながりますし、地方にいながら専門分野の知識習得を行うことができます。

(東日本電信電話株式会社作成資料より)

医療カンファレンスシステム



(問い合わせ先)

東日本電信電話株式会社 ビジネスユーザ事業推進本部 TEL : 03-3830-9121

(医療・福祉の充実－9)

遠隔画像診断サービス
(株式会社ネット・メディカルセンター)
<http://www.nmed-center.co.jp>

〔概要〕

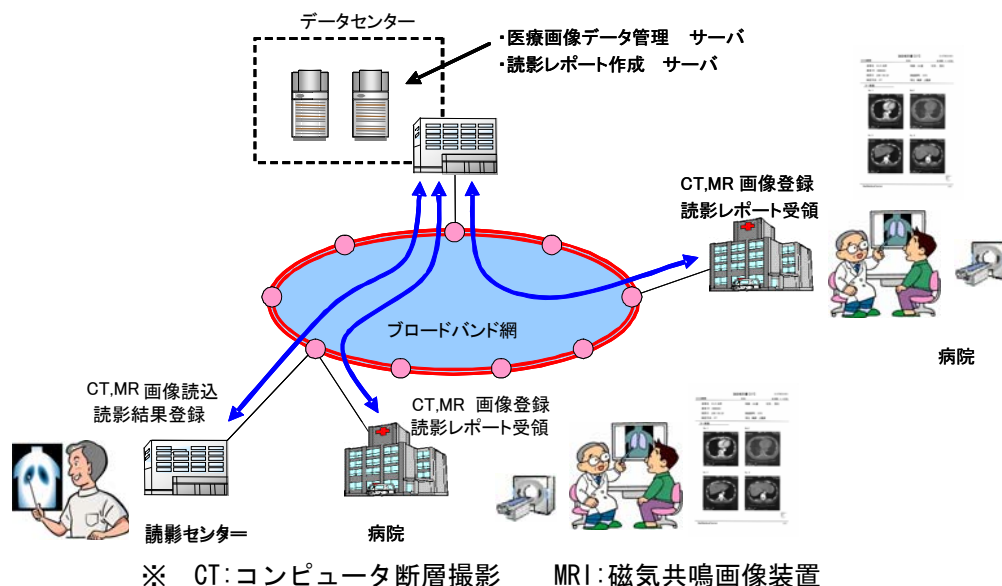
医療施設で撮影した患者のCT、MRIなどの画像を通信回線を活用し、データセンターに蓄積し、放射線科の専門医師により画像を読影します。読影結果は医療施設にレポート送信され、主治医の診断をサポートします。

このシステムを活用し、放射線科専門医による質の高い画像診断情報を遠隔地の医療施設に提供することにより、診療を支援し医療に貢献することを社呈としています。

〔コラム〕

本サービスでは、1回の診断で約50メガバイトの大容量画像データを病院とデータセンター間で伝送するため、高速通信網の活用が必要不可欠です。

現在、約160病院と契約し、1日あたり600件程度の頻度で画像の読影を行っています。また、このシステムのハード・ソフト一式をレンタルする遠隔画像診断ASP (Application Service Provider) サービスも展開しており、約10施設の遠隔画像診断システムに採用頂き、好評を得ています。



(問い合わせ先)

株式会社ネット・メディカルセンター

TEL : 092-533-8866 e-mail : information@nmed-center.co.jp